

# 資料



## ＜小学校以降の生活や学びにつながる幼児期の育ち＞ ～遊びの中の学び～

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。幼児は、保育者に温かく見守られているという安心感の中で、いろいろな遊びを通してたくさんのことを学び、身に付けていきます。この時期は、大人への依存を基盤としつつ、自立へ向かう時期であることから、保育者は、子どもが自ら興味をもってかかわろうとする環境を構成し、一人一人の子どもの育ちに沿った適切な援助を行い保育にあたっています。

### ○ 健康な心と体を育てる

- ☆ 心と体を十分に働かせ、無我夢中で遊びに没頭する中で、身体の発育と運動機能の発達が促されていきます。
- ☆ 保育者の適切な援助を受け、毎日繰り返し行うことによって、生活に必要な衣服の着脱、食事、排泄、衛生面などの生活習慣を身に付けていきます。

### ○ 自立心を育て、人とかかわる力を養う

- ☆ 生活の様々な場面で自分なりに考えて、自分の力でやってみようとする態度を育てることによって、生きる力の基礎を身に付けていきます。
- ☆ いろいろな遊びを心ゆくまで楽しみ、自分なりの満足感や達成感を味わうことを通して、物事をやり遂げようとする気持ちを育てていきます。
- ☆ 友達と一緒に楽しく遊ぶためにはきまりが必要であることを理解し、きまりを守ろうとする力の基礎が養われていきます。
- ☆ 友達と一緒に遊ぶ中で楽しさやぶつかり合いを体験しながら、人間関係を深め、共通の目的を生み出し、協同の学びの経験を重ねていきます。

### ○ 好奇心や探究心をもってかかわり、生活にとり入れていこうとする力を養う

- ☆ 自然と出会い、感動するような体験を通して、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情などを育てるばかりでなく、科学的な見方や考え方の芽生えが培われていきます。
- ☆ いろいろな遊びの中で、考えたり、確かめたり、工夫したりすることを楽しむことを通して、思考力の基礎が培われていきます。
- ☆ 幼児が生活や遊びの中での必要感から、数や図形などに関心をもちかかわることで、生活や遊びがより豊かになっていきます。

### ○ 言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う

- ☆ 保育者や友達との関係が深まるにつれて相手の話に関心を持ち、相手の話を理解しようとするようになり、聞こうとする態度が身に付いていきます。
- ☆ 集団生活の中で自分のしたいことや相手にしてほしいこと、分からないことや知りたいことなどを言葉で表現し、伝えることの必要性を理解していきます。

### ○ 豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする

- ☆ 自分のイメージを広げ、いろいろな方法で豊かに表現する楽しさを味わうことを通して、表現力の基礎が培われていきます。
- ☆ 幼児が自由に表現しようとする姿を保育者が温かく見守り、実感し、心ゆくまで対象とかかわることを楽しめるようにすることで、豊かな感性が養われていきます。

学びがつながる幼稚園と小学校の交流活動 (指導案例)

【幼小交流活動案 (5歳児と小学1年生) (小学校の大プール・第2校時)】

<小学校の目標と幼稚園のねらい>

小学校の目標 (1年生)	幼稚園のねらい (5歳児)
○いろいろな水遊びをしよう ○きまりを守って水遊びを楽しむ ○幼稚園の友達と一緒に水遊びをするなかで、お手本になれるようがんばる気持ちをもつ	○学校のプールでいろいろな水遊びを楽しむ。 ○学校のプールのきまりを守りながらいろいろな水遊びを楽しむ。 ○友達や1年生と一緒にプール遊びを楽しむ

※ 夜須小学校のプールは床が可動式で、水深を調整することができる。

<展開>

児童の活動(○) 担任の支援(*) 評価(☆)	交流活動の流れ	園児の活動(○) 担任の援助(*)
○隣に座った園児に優しく声をかけ、やり方を教える。 * 本時の流れとめあてを伝え、お手本になりながら水遊びを楽しもうとする意欲をもたせる。 * 笛の合図を徹底する。 1回スタート 2回終わり 3回プールから出る ○いつもの水慣れを園児にも教えながらしていく。 ○笛に合わせて行動するが、園児にも声をかける。 * やり方がわからないときにはやって見せたり、1年生がモデルとなったりして園児に分かるように進めていく。 ○いろいろな水遊びをする。 * 一緒に水に入り、担任も楽しむ。 安全のため補助教員は上から見る。 * 水に抵抗のある子もいるので、声をかけると同時に、一緒にする場面ももつ。 * ご石拾いでは、水に抵抗のある子にはリングや魚をとるように声をかける。 ☆自分ができることをきちんとやるとしている。[観察] ☆前回できなかったことにチャレンジしようとする。[観察] * 波の作り方を説明し、笛に合わせて波を作れるようにする。安全には十分配慮する。 * 順番を守って、しっかりと洗わせる。	1. 整列場所の確認をする。 ・ 1年生は赤白に分かれてプールサイドに座り、間に園児が入る。 2. めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         いろいろな水遊びを楽しもう                     </div> 3. 水慣れをする。 ・ 足→手→顔→頭→背中→胸 ・ 後ろ向きにゆっくり入る。 ・ 肩まで入り、顔をつける。 4. 水遊びをする。 ・ 走る・わに・カニ・カエル ・ いるか・ふね ・ ご石拾い <ゴムボール (多面体) > 5. 自由時間・それぞれの遊び ・ 1年生と園児がそれぞれに水遊びを楽しむ。 6. 波を作って遊ぶ。 7. 整理体操をする。 8. まとめをする。(感想) 9. シャワー ・ 目も洗う。	○プールサイドに座っている1年生の間に座る。 * 担任も子どもたちと一緒に元気に挨拶をする。また、1年生の間に入りづらい子どもには声をかけたり、一緒に行ったりする。 * 1年生の先生の話が聞いているか、子どもたちの様子を見守り、よく聞いていない時には聞くように気付かせていく。 ○1年生のしていることをまねて一緒に水慣れをする。 * 1年生に教えてもらっている様子を見守りながら、担任も一緒にする。 ○1年生や友達と一緒にいろいろな動きを楽しむ。 * 担任も一緒にプールに入り、一人一人の子どもの取り組みを認めたり、励ましたりする。 * プールでの安全に気をつけながら、顔をつけることに抵抗感がある子どもには、自分なりの取り組み方で楽しめるよう援助する。 ○1年生に教えてもらったり、共に水遊びをしたりすることを楽しむ。 * 友達や1年生とかかわって遊べるよう、誘ったり声をかけたりして、つなぎ役となる。 ○目を洗い、シャワーを浴びる。 * しっかりと目を洗うよう声をかける。

# 中1ギャップ解消のための小中連携教育に向けて

平成21年1月 高知県教育委員会

## 1 高知県の中1ギャップの現状・・・

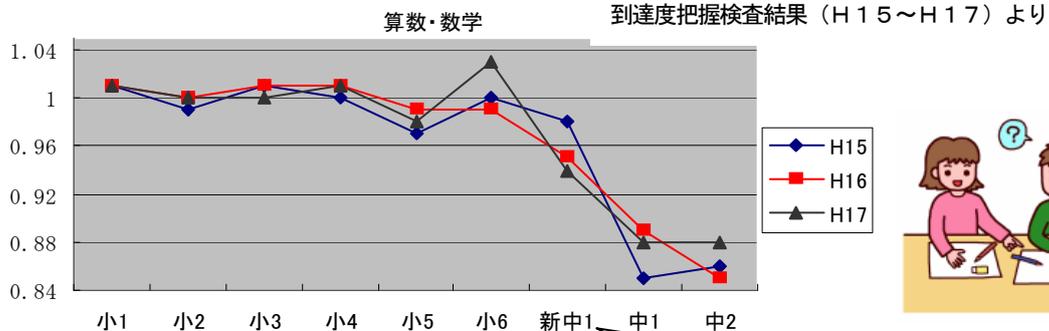
中1ギャップとは、中学校での学習や生活に適応できずに中学1年時に学力の低下や不登校の急増などの教育課題が顕著に現れる現象であり、小学校から中学校への円滑な接続が全国的な課題となっています。

本県においても、全国学力・学習状況調査結果や到達度把握検査結果から中学校での学力低下の状況が見られ、また、不登校も小学6年生から中学1年生にかけて約3倍に急増し、中学校での暴力行為発生率も全国ワーストクラスという状況があります。このような状況は、中学1年生時に、特に顕著に表れており、この課題を解決するためには、中学校区の小・中学校が連携して、早急の中1ギャップ対策に取り組む必要があります。

このため、県教育委員会では、小・中学校が連携して取り組むための指針として「中1ギャップを解消するための5つの手立て」（4ページに掲載）が必要であると考え、これに向けて県全体で取り組むこととしました。

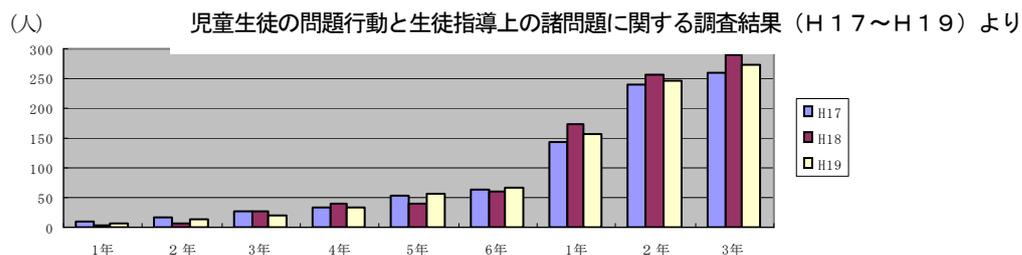
各市町村委員会や学校におかれましては、これまでの取り組みをさらに補充、深化させていただくための指針として活用していただきたいと思います。

### 本県の児童生徒の学力定着状況



学年は、調査の内容学年を示しています。  
 なお、新中1は、中1の前期に小学校の学習内容を調査したものです。

### 本県の不登校児童生徒の状況



## II 中1ガイダンスの実施に向けて

「中1ギャップを解消するための5つの手立て」の中でも、早急に取り組むべき課題として、まずは中1ガイダンスを取り上げ、以下にその指導内容例を示しています。生徒の周囲の環境が大きく変化する中学校入学時に、学習や生活をよりよく理解するためのガイダンスを充実させることは、中1ギャップ解消のための鍵となるものです。

### 授業や家庭学習の仕方

#### 「学習の手引き」の活用

- 学ぶことの意義
- 中学校での授業（教科担任制、教科、授業時間等）
- 授業のルール
  - ・ 学習用具の確認 ・ 発表の仕方ときまり
  - ・ 班学習の仕方 ・ 教科委員の役割
- 教科ごとの学習方法
  - ・ 予習や復習（宿題）の仕方 ・ 教科の勉強の仕方

(参考)

県内の学校で作成している「学習の手引き」の事例を小中学校課で収集していますので、お問い合わせください。



### 授業と家庭学習のサイクル化

- 家庭学習の定着
  - ・ 家庭学習アンケートの実施 ・ 家庭学習の計画の作成
  - ・ 予習や復習（宿題）の提出の仕方

### 仲間づくり

- 入学時のガイダンス合宿の実施
- Q・Uアンケートの活用
- 体験活動の充実

### 学校生活への適応

#### 「中学校生活のしおり」の活用

- 中学校生活の「一日の流れ」
  - ・ 朝学活、終学活の進め方 ・ 給食、掃除の仕方
  - ・ 休み時間の過ごし方 ・ 保健室の利用の仕方
- 生徒心得 ○ 学校の相談体制
- 生徒会組織と専門委員会の役割

#### 部活動への参加について

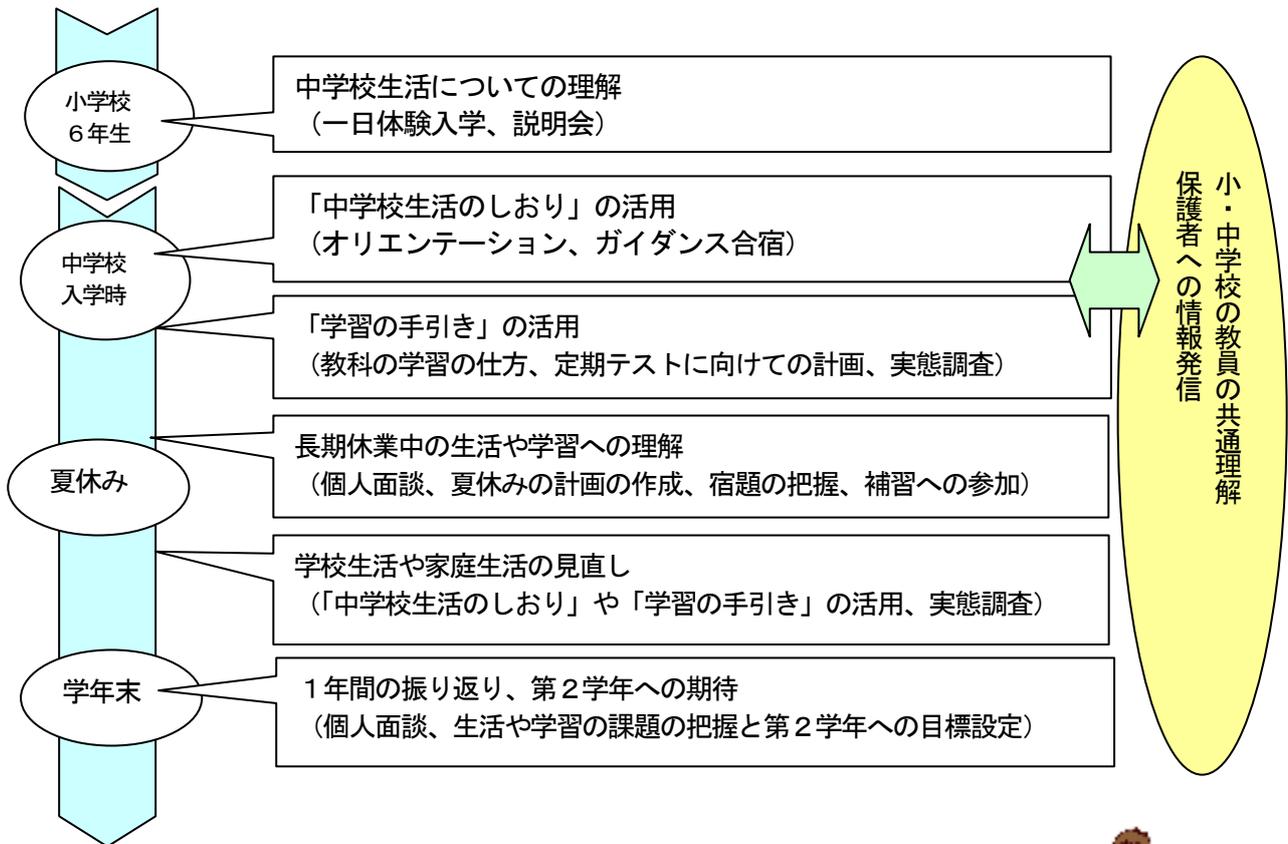
- 部活動の意義
- 勉強とスポーツのバランスのとれた生活の在り方
- 部活動に参加するうえでのルール（安全面、服装）

「部活動の実践に向けて 輝く笑顔（県教育委員会作成）」参照

### 家庭・地域への情報発信

- 学校通信や、リーフレットなどによる情報発信
- PTA研修会や学級懇談会での協議による共通理解

### Ⅲ 中1ガイダンスの年間スケジュール(主な指導内容)



#### 実践事例

##### 入学時のガイダンス合宿

- 1 目的 中学校生活のスタートにあわせて、学習の仕方を学ぶとともに、新しい仲間との相互理解を深める。
- 2 内容
  - (1) 1日目 「中学校生活のしおり」の学習  
教科のオリエンテーション  
自主学習の練習
  - (2) 2日目 仲間づくりのレクリエーション  
野外炊飯

(参考) 県内の青少年宿泊施設

- ・ 県立青少年センター
- ・ 県立幡多青少年の家
- ・ 県立高知青少年の家
- ・ 国立室戸青少年自然の家
- ・ 県立香北青少年の家



##### 「中学校生活のしおり」の内容例

- 1 はじめに (学校教育目標、校則の意義等)
- 2 校内生活について  
(日課表、生徒会組織、授業の受け方、生活の心構え、保健室の利用、部活動等)
- 3 校則に関して (服装、登下校について等)
- 4 生徒手帳について
- 5 情報の取り扱いについて (個人情報、情報の選択等)
- 6 その他 (諸届け、臨時休校、相談機関等)



## IV 中1ギャップを解消するための5つの手立て

### 1 教員同士の共通理解

#### 小・中連絡会の実施

- 各種調査によって明らかになった児童生徒の実態把握（学力調査、生活実態調査、個別の支援計画等）とその情報共有
- 特別支援教育に視点をおいた児童生徒への支援体制づくり
- 小中連携の取り組みを強化するための学校改善プランによる共有化
- カリキュラムの共通理解を図るための乗り入れ授業の実施

### 2 児童生徒の学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上

#### 中1ガイダンスの実施

- 入学時のオリエンテーションの充実
- 「中学校生活のしおり」や「学習の手引き」の活用
- 入学時のガイダンス合宿の実施

何事も最初が肝心！  
中1ガイダンス！

### 3 児童生徒の自尊感情の高揚

#### 互いのよさを認め合う学級づくり

- 人権尊重の視点にたった学校・学級づくり
  - ・班活動の活性化
  - ・異年齢集団との交流
  - ・自己や他者に対する理解を深める学習の機会の充実
- 人間関係づくりプログラムの実施
  - ・入学早期の人間関係づくりや体験学習の実施
  - ・上級生と新入生（中1）との学校生活についてのピア・サポート学習の実施
  - ・互いを認め合うQ-Uアンケートの活用



（参考）Q-Uアンケートの分析や活用については、高知県心の教育センターにお問い合わせください。

### 4 児童生徒の目的意識の醸成

#### キャリア教育の充実

- 「学ぶこと」の意義や「生き方」についての学習の重視
- 小学校からの系統的なキャリア教育の充実
- 職場体験学習の実施
- 社会人講師（その道の達人）による講話

### 5 家庭・地域への情報発信

#### 家庭学習習慣の確立と協力依頼

- 小・中学校9年間を見通した望ましい家庭学習や生活習慣の在り方、中学校区の取り組みについての情報発信
- 中学校での学習や生活についての説明会の実施
- 家庭・地域とともに子どもたちを育てていくという意識の共有

問い合わせ先：高知県教育委員会事務局小中学校課

## 個別の指導計画（記入例）

氏名・学年	00 00 ( 小学校 3年 男 )	評価計画 (PDCA)	支援方法によって2週間～1ヶ月実施。各担当の教員から支援方法の成果についての情報を交換して、学期に1回支援方法の計画立案。		記入者 (参加者)	00 00 00 00 00 00
			担任の願い	・国語については、2学年相当の漢字を読んだり書いたりできる。		
保護者 本人の願い	・国語が遅れているので力をつけてほしい。(保護者) ・みんなと同じように本読みができるようにしたい。(本人)		指導方法 (手立て)	主な指導の場	児童の変容・評価	
学習面	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読はただどきどきと、文字を抜かしたり、余分な文字を加えたりして読む。</li> <li>・形の似た漢字や意味の関連のある漢字を読み間違える。漢字を覚えることが苦手。</li> <li>・文字を視写することが難しい。</li> <li>・1年の漢字の習得は3割程度である。</li> <li>・算数では、時間をはかるか理解はできていない。</li> </ul>	<p>考えられる背景・要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこを見ているのかわからない。</li> <li>・漢字を覚えられない。</li> <li>・似た文字の区別がつかない。</li> <li>・言葉の意味理解ができていない。</li> <li>・語彙不足。・経験不足。</li> <li>・目と手の協応運動。</li> <li>・覚え方、解き方がわからない。</li> </ul>	<p>長期目標・短期目標</p> <p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習った漢字を読むことができる。</li> </ul> <p>短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生までの漢字を書くとができる。</li> <li>・2年生の1学期の漢字を読める。</li> </ul>	<p>指導方法 (手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に振り仮名や言葉の区切りの印をつける。(保護者の協力)</li> <li>・覚えにくい漢字の把握をし、覚え方の工夫をする。(言語化・絵・歌等)</li> <li>・カードに書き出した漢字を毎日読む。</li> <li>・2年の教科書から、本人が2行ずつ選択し視写をする。</li> <li>・学習方法の手順をカードに示す。</li> <li>・絵本や紙芝居の読み聞かせをする。</li> </ul>	<p>主な指導の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体指導の場 (担任、T・T担当)</li> <li>・個別指導の場 (管理職等)</li> <li>・個別指導の場 (担任)</li> <li>・全体指導の場 (担任、T・T担当)</li> <li>・全体指導の場 (T・T担当)</li> </ul>	<p>児童の変容・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭では、本人から「振り仮名をふって」と言ってくるようになった。</li> <li>・1年生の漢字の8割程度がすらすら読めるようになった。</li> <li>・視写では、苦手ながらも時間短縮できている。「もっと書きたい」と言うときもある。</li> <li>・意識して注意喚起することで、以前より聞ける態度が増えてきた。</li> <li>・全体的に学習規律ができてきた。</li> <li>・何をしたいのか分からない時に友だちに聞けず困っていたが、このカードの利用の仕方が本人に分かり自信をもって動けるようになってきている。</li> </ul>
生活 行動面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示がとおりにくく、周りを見て物事に取りかかることが多い。</li> <li>・書く時の姿勢や、鉛筆等の用具の使い方がぎこちない。</li> <li>・机の上の鉛筆や消しゴムなどをよく落とす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話を聞き取ることが難しい。</li> <li>・聞いたことをすぐに忘れる。</li> <li>・一つのこと集中すると次に移れない。</li> <li>・手先の不器用さ。</li> </ul>	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の話を最後まで聞く。</li> </ul> <p>短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す人の方を見る。</li> </ul>	<p>指導方法 (手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の徹底をする。</li> <li>・発問や指示をするときには、注意喚起をする。</li> <li>・聞いている時には、意識をして誉める。</li> <li>・覚えておかなければならないことは、カードで視覚的に示す。</li> <li>・手先の不器用さについて、楽しいゲームや作業の中で指先の力をつける。</li> </ul>	<p>主な指導の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体指導の場 (担任)</li> <li>・全体指導の場 (担任)</li> <li>・個別、全体指導の場 (担任)</li> <li>・個別指導の場 (T・T担当)</li> <li>・個別指導の場 (T・T担当)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識して注意喚起することで、以前より聞ける態度が増えてきた。</li> <li>・全体的に学習規律ができてきた。</li> <li>・何をしたいのか分からない時に友だちに聞けず困っていたが、このカードの利用の仕方が本人に分かり自信をもって動けるようになってきている。</li> </ul>
社会性 対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トランプやカードゲームで友だちとよく遊ぶ。</li> <li>・先生や友だちに自分から声をかけることは苦手である。</li> <li>・自分がどうしているかわからなくなった時に動けなくなってしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びをとおしては、友だちとかわかっていることができる。</li> <li>・なんとなく言って声をかければよいか分らない。</li> </ul>	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で、困った時にどうしたらよいか分かる。</li> </ul> <p>短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級での活動場で「分からないので教えて」「ありがとう」が言える。</li> </ul>	<p>指導方法 (手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活場での会話のスキルを学ぶ機会を増やす。(個別で・学級で)</li> <li>・実際の場面を4コマ漫画で視覚的に表現し、どう言えばよくなったのかを学ぶ。</li> <li>・本人が困った時には、個別に説明をする。</li> </ul>	<p>主な指導の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別、全体指導の場 (担任)</li> <li>・個別指導の場 (担任、T・T担当)</li> <li>・個別指導の場 (担任、T・T担当)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回に1回ぐらいは、担任との合図で自分から言える。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えや給食、掃除等の取りかかりや作業に時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべきことの手順がわからない。</li> <li>・筋力が弱い、バランスが取りにくい、不器用さがある。</li> <li>・作業に慣れていない。</li> </ul>	<p>長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考えて着替えることができる。</li> </ul> <p>短期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着替え表を見て時間内に着替えることができる。</li> </ul>	<p>指導方法 (手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の手順を視覚的に示す。</li> <li>・充実した体育の時間保障や休み時間の中で筋力をつける。集会等での楽しい工夫。</li> <li>・活動のはじめに声をかける。</li> <li>・友だちとの助け合い。</li> </ul>	<p>主な指導の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、休み時間 (担任)</li> <li>・学年集会、なわとび週会等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の着替えや当番活動については、手順表を見てできました。</li> </ul>

## 個別の教育支援計画（様式例）

作成日	平成〇年〇月〇日 【新規・更新（回）】	記入者		
氏名	(男・女)	生年月日	年 月 日 ( 歳)	
住所		所属		
保護者	続柄 ( )	電話番号		
現在のニーズ（現在の生活・将来の生活への希望）		支援目標		
本人				
保護者				
学校				
必要と思われる支援				
関係機関で現在受けている支援				
	支援機関 担当者（連絡先）	支援目標	支援内容	評価
医療 療育 福祉				
教育				
家庭				
その他 ・労働 ・地域				
支援会議の記録				
日時	構成メンバー	記録	評価・課題・引継事項	

以上の支援内容と支援機関への情報開示について了承しました。

平成 〇年 〇月 〇日

保護者氏名 \_\_\_\_\_ 印

